

第 1 回 函館市観光振興財源検討委員会 議事概要

1 開催日時, 場所

- (1) 日 時 令和元年 7 月 22 日 (月) 18:15 から 20:00 まで
- (2) 場 所 市役所本庁舎 8 階第 2 会議室

2 議題

- (1) 委員長および副委員長の選出について
- (2) 観光振興に関する財源確保策の検討について

3 議事概要等

【事務局説明】

- ・函館市における観光入込客数の推移について、宿泊客の割合が高く、外国人宿泊者数については、急増している。
- ・函館観光の現状から、観光振興のための地域基盤構築や観光力の向上、魅力発信と誘客促進などの取り組みが求められている。
- ・歳入面においては、自主的な財源が少ない脆弱な体質。
- ・歳出面においては、義務的経費の割合が高い硬直した体質。
- ・今後、財政規模の縮小が見込まれる中、観光予算を確保し観光施策を充実させることが重要であることから自主財源の確保が必要と考えられる。
- ・負担を求める対象と手法を論点とし、観光振興協力金（寄附金）、入湯税超過課税（法定税の超過課税）、宿泊税（法定外目的税）について比較検討を行い、観光客が行政サービスの恩恵を受けていること、また、制度設計により安定的かつ継続的な財源確保策となりうることから、観光振興財源確保策として宿泊税がふさわしいと考えられる。

【委員等意見概要】

- ・宿泊者数は、延べ宿泊者数を基礎数値とした資料が必要ではないか。
- ・観光予算に対する市民負担だけでなく、効果がどれほどあるか示すべき。

- ・小さな町でもたくさん観光予算を使っているところがあるのではないか。
- ・財源の使途については、新規・拡充の施策なのか、現行の施策の維持のためなのか。はっきりしないことには、財源を確保する意義が見えない。
- ・観光振興のためのしっかりとしたビジョンが必要である。
- ・観光客の動向は、災害や経済事情など様々な要因で増減する。
- ・不足する分だけの財源を確保するだけでよいのではないか。補填的なものになるのではないか。
- ・報道先行していると感じる。丁寧な説明，議論が必要である。
- ・温泉施設も新規に増えていることを考慮し議論するべき。
- ・観光関連の施設を対象とし，幅広く比較検討してはどうか。

【まとめ】

- ・方向性として宿泊税の課税があるのか，ないのか，資料をきちんと精査して決めていく必要があり，先行している他都市の状況などまとめて，次回以降の議論を進めていく必要がある。